
中尉の放課後

有村ユカ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

中尉の放課後

【Nコード】

N0357A

【作者名】

有村ユカ

【あらすじ】

主旨がずれてきた二人だが（有村も…）、ジャンが来てくれたお陰でなんとかその場を逃れたリザのハラハラ話

放課後二限目。

ピストルを抜かれたロイは腰を抜かしていて、とても立てる状態ではなかった。

灰になったロイをしり目に、リザはそそくさと帰り支度をしていた。
『大佐。』ジャンは小声でロイの耳元でひそひそ話しかけていた。
『ホークアイ中尉を怒らせないようにして下さいよ、大佐。』そう言うジャンは、帰り支度をしているリザを横目でチラリと見た。
ロイはジャンの声を聞く気力もなかった。(こんなにヤバイ奴だったか？)ロイは心の中で呟いた。司令室にはリザとロイの二人だけ。

ロイは半びくびくしながら書類を小分けしている。

一方リザは、自分のやりかけの仕事をしていた。

『中尉。もうその仕事は明日でいいぞ。こんなに遅くまでここにいと帰りの夜道が危険だ。』心配そうにロイはリザに言ってみせた。
リザはきつ、と睨み返し意地らしく笑った。『これは大佐の責任です。部下の仕事を増やして、挙げ句の果てにこんな夜中まで勤務させるとは。』呆れながら答えるリザに対し、ロイはむっ、とした表情で言い放った。『だからもう帰って良いと言っているだろう？』
だんだんキレかけてきたロイに、リザはつん、としながら答えた。

『か弱い女性にこの夜道を一人で歩かせる気ですか？』ロイはさすが。『どこがか弱い女性か。』

『口には出さずに心の中で突っ込んだ。』

『私なら錬金術で相手を焼き払えるからいいが、君はピストル。近距離になったらまずいだろう。』

『なんとか遠回しに言うが、売り言葉に買い言葉、なかなか抗論が止まないで先にリザが止めた。』

『私が言いたいのはそのうちのことじゃないんですよっ！』パンツと机を叩いてロイに言った。

『じゃあ何が言いたいんだね、君は。』

『怒りを抑えながらリザに問うた。』

しかし、意外なまでの返答にロイは一瞬たじろいてしまった。

『…え…？』 『だから、大佐と一緒に帰りたいて言ってるんですっ！何回も同じこと言わせないで下さいよっ！』 それだけ言い放ったリザはぷいつ、とそっぽを向いた。

ロイは何が起きたのか理解できなかったが、リザの後ろ姿を見てやっとなんと解った。リザの耳は真っ赤に紅潮しきっていたからだ。

ロイはふっ、と微かに笑い、リザの所まで歩いた。

リザは気配に気付कि振り向こうとしたが、ロイの力で無理矢理振り向かされた。

『…つちよつと大…！』 ぐっ、と腕を引っ張られ、勢いよくロイの胸に引き寄せられた。

『……大佐っ。』

『動かそうとしてもぴくりとも動かない。』

リザは急に恥ずかしくなってきた。

『…た、大佐っ！離してくださいさ』 言いきる前にロイはリザの口を塞いだ。

リザは一瞬何が起こったのか分からなかったが、すぐキスをされているのが解った。

『…っ！』 喋ろうとするリザの唇を無理矢理舌でこじあげ、リザの舌を絡ませ喋れないようにした。

『…！！…ふっ…ん。』

『絡ませる度にリザの口から漏れる声。』

だんだん頭が回らないようになってきたリザの体を、ロイは片方の手で首筋から肩、腕、クビレ。

ゆっくりと小鳥を撫でるかのように這わしていく。リザは身体中から寒気のようなものを感じた。

このままではまずい。

なんとか振りきろうとする腕をロイは軽く交わす。

リザはだんだん足に力が入らなくなってきたのを察した。

（このままでは大佐の思うつば…）心の中で思っていたリザに、ロイは止めをさすようにリザのシャツに手を滑らせた。

『！？…ふっん…』びっくりして漏らした声に、ロイはしめしめと思いつながらどんどんエスカレートしていく。

リザの胸のところまできたとたん……コンコン、とドアを叩く音が。二人とも動きを止め、距離を離れた。

『入れ。』ロイはそう言っただアの外に人物に言った。ガチャ、とドアが開き、そこにはジャンが立っていた。リザは心からほつ、と胸をなで下ろした。『…あれ、まだ残ってたんスか？ホークアイ中尉。』きょんとした顔で聞かれたリザは、いつもの顔で答えた。『大佐が書類を片付けるまで待つていたんです。それに私の仕事も残っていたので。』りんとした口調で言った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0357a/>

中尉の放課後

2010年10月10日13時37分発行